

⑥ 大槌町吉里吉里の曹洞宗虎龍山吉祥寺 高橋英悟住職の講話を聞いて

工藤 まり子

私は今回ツアーに参加し、津波被害が人に残したものを肌身に感じることができました。特に心に残るのは、大槌町にある吉祥寺のご住職高橋英悟様のお話です。

8年前の震災の時、住職の目の前で起こったのは、津波による信じられない光景です。

その過酷な状況に住職は、生き残った生命を守り、現実に向き合って考え続けようという行動を始めました。

子どもたちにお寺の境内を開放したお話を伺いました。その後に見学した廊下には大きな手作り境内地図があり、子どもたち一人ひとりが、そこに自分の気持ちを記していました。

吉祥寺は吉里吉里地区で唯一のお寺です。美しい開山堂は、位牌が地区の昔の集落ごとに仲良く配してある安らぎの空間でした。また、お寺のすぐ近くの海を見晴らす丘の上に、宗派を問わない合同墓地を作り、誰もが供養できるようにしてありました。

震災犠牲者の人生を本にする官民協働プロジェクト「生きた証(あかし)」には、実行委員長として尽力し、協力を添える遺族にも説得を試みました。多くの人々の支援を受けて結実した「生きた証」-平成28・29年度版-の2冊には、621名の尊い生命の記録が刻まれた、とのこと。そして、

平成30年初めに解体された旧役場庁舎(大勢の役場職員が犠牲となった遺構)についても、未来を担う子どもたちが成長するまで解体を延期し論議を続けて欲しいと、最後まで訴えて運動を続けて下さいました。

私は、英悟住職の「犠牲者を弔い、生き残った命を生かし、将来の命を守ることにつなげる」という信念と、阻まれても柔軟に受け止め、行動し続けていく姿勢に驚きました。

震災と津波という試練を、人が共に乗り越え生きていく貴重な実践に触れることができました。これから生きてゆく私たちや未来の人も、このお寺を訪れ、本堂や六角堂で手を合わせれば、多くの示唆を得ることができると思います。

私は2018年に大槌を旅して旧役場庁舎の写真撮っていた時、壮年の方から声をかけられました。その時、その方から怒りに似た感情を強く感じました。そこで、さらにお話しをして、それは解消されました。

今は、私には何ができ、これから何をすればいいのか考えていきたいと思っています。

お世話してくださった皆さん、地元の皆さん、どうぞお元気でいらして下さい。

また、お会いしましょう。本当にありがとうございました。



金色の開山堂



手づくり境内地図